

武蔵野市農業振興基本計画見直し検討委員会（第4回）  
会議録要旨

|   |
|---|
| 日 時：令和3年10月27日（水曜日）午前9時29分から11時05分  |
| 場 所：武蔵野市役所西棟4階412会議室  |
| 出席委員：淵野雄二郎委員長、榎本一宏副委員長、田中誠委員、後藤幸治委員<br>伊藤輝夫委員、森田茂紀委員、田中宏茂委員、中村健二委員<br>岩本千絵委員、田川良太委員 |
| 事務局：吉崎産業振興課長、産業振興課農政係職員   |

次第

- (1) 計画改定案の検討について
- (2) 事務連絡等

1 計画改定案の検討について

●第3回委員会までに出された意見を踏まえ作成した改定案について、事務局より説明を行った。

●武蔵野市農業の将来像について、意見交換を行った。

（委員）農業従事者数も農地面積もこの直近10年で見ると、約18%減ってきたという数字が出ると思う。減ってしまうことは見通されるけれども、15%に抑えるということが市としては意欲的な目標なんだということが分かるような記載にしていきたい。

（事務局）修正、検討させていただく。

（委員）武蔵野市の0.3ヘクタール未満の経営体数が20、都市型認定農業者の要件に満たない農家の方が30%いるという中で、今回の（認定農業者及び都市型認定農業者の割合）65%は非常に積極的な数字という印象を受けた。

●学校給食について、意見交換を行った。

（委員）学校給食における使用割合を35%に増やすということだが、現状は何パーセントか。

（事務局）以前の会議にて配付した資料のとおり、現状は18.9%という状況である。ただしこの数値は学校の児童数が増加したといった要因が含まれるので、決して学校給食への出荷数が減っている状況ではないと伺っている。

（委員）学校給食における使用割合を35%に増やすということだが、現状の割合を示したうえでの記述のほうが良いのではないか。

（事務局）児童数の関係もあり、割合は現状下がってしまっている状況である。よって決して後ろ向きな状況というわけではないため、書きぶりを検討させていただき、現状はあえて書かずに35%としたが、いかがか。

（委員）書くのならばカロリーベースか、重量ベースかどちらかにしておく必要が

ある。

- (事務局) 18.9%は重量ベースであるため、35%も重量ベースでの目標となる。
- (委員) 学校給食における使用割合が上がりにくいのは、需要に応えるだけの供給ができないということと思うが、そのあたりはいかがか。
- (委員) 急激ともいえるような子どもたちの数の上昇に対して、それを賄えるところまで追いついていないという現状と思う。
- (委員) 学校給食部会の部会員は少しずつ増えている。作付けの重量で言えば横ばい、もしくは少し増えているような状況である。しかし、特に桜堤・境方面の児童増加に対する出荷量が計算上は上がらないという状況が続いている。部会でも市と協力して出荷量を増やそうと取り組んでいる次第である。

●体験農園について、意見交換を行った。

- (委員) 市が運営する体験農園はまだないという理解でよろしいか。
- (委員) 市が運営する体験農園はない。市内に存在する体験農園の現状を見ながら、民間でやられている体験農園の活用を促すという目標である。市民農園については引き続き整備拡充をしていくことを記述することで、バランスを取っているとご理解いただきたい。
- (委員) 学校と提携して実施する芋掘り体験はあるのか。
- (委員) 学校からのニーズを踏まえて芋掘りの幹旋のような形で実施している。体験農園については、今後の課題とさせていただきたい。

●情報提供について、意見交換を行った。

- (副委員長) ITの時代なので、現在も発信している調理のクックパッドとか直売所のグーグルマップのように、幅広い情報提供をしているということも書いておいてもいいのではないか。
- (委員) 調理師さんのほうで、武蔵野市内産の野菜を使ったクックパッドを載せていただいたりしているので、記述したらよいと思う。
- (事務局) 「現状と課題」の項でまとめて記載しているところである。

●ふるさと応援寄附について、意見交換を行った。

- (委員) ふるさと納税に出せるような武蔵野の特徴ある農産物が期待できるのかというところを農業者の委員の方にお伺いしたい。
- (委員) ウドは特徴的な作物であるが、さらに農協のプロジェクトでザーサイを増やそうと取り組んでいるところである。若手も先輩方も含めて、何か一つ特徴的なものを作りたいというのは共通認識を持っている状況であると思う。
- (委員) ウドは作る人も作付面積も個々に減ってきている。群馬での山あげの受入れ農家も高齢化してきており、いつまで続けられるかという問題がある。
- (委員) 妻はふるさと納税で梨を頼んでいる。武蔵野は果樹農家が少ないが、需要があれば果樹(栽培)を考える人もいるのではないか。そうなれば、良い

取組じゃないかと思う。

( 委員 ) 他市では、1軒の農家ではなく、J Aで複数の農家による詰め合わせセットを作るという考え方もある。

●意見を集約のうえ、事務局にて修正を検討し、パブリックコメント前の最終案とすることとした。

#### 4 事務連絡等〈省略〉

以上